

の暑き日にて、供奉の人々これをくるしみのむどかはきけれど、あたりに結ぶべき清水もなし、此邊のはたは西瓜を一般につくる事なれば、こゝもかしこも累々としてあるをみれど、田圃のものゝを損する事は、常々かたく禁じ玉ふことなれば、指さすものもなかりしに、いづれもの疲たるさまを御覽じ、其地の代官伊奈半左衛門忠達をめされ、何事にやひそかに仰あり、半左衛門心を得しさまなりしが、やがて圃中に入て、なかにも大きな西瓜一つをとり來り、手にてつきやぶり一口食ひ、あら心よや、これにて咽を潤したりといふに、あたりの人々これをみて、半左衛門代官の身にてさへ、かゝる舉動すれば、我々とても憚るべきにあらずと、いそぎはたの中に分入思ひくゝにとりくひて、いづれも渴を忘れけり、これ田圃のものをみだりにとるべしとは仰られ難きにより、わざと半左衛門に御心をさとし玉ひ、衆人の渴を救はせ玉ひしなるべし、さて其後西瓜の數をあらためしめて、其價を農民に賜ひしとなり、

苦瓜

〔和爾雅七菜蔬〕瓜 錦荔枝同又

〔書言字考節用集六生植〕錦荔枝

〔物類稱呼三生植〕錦荔枝 つるれいし 長崎にてにがごうりといふ、是は苦瓜の轉語なるべし、

〔大和本草七園草〕錦荔枝 一名苦瓜ト云、春子ヲマキ、長ジテ籬垣ニ延シム、本草鹹菜部ニノセタリ、

本草ニ其實青キ時瓢ヲ去テ青キ皮ヲ煮テ、肉ト豆油ニ入テ煮食スト云、皮ノ味甚苦シ、故苦瓜ト云、其實ノ形荔枝ニ似タリ、熟シテ色黄ナリ、錦色ノ如シ、皮開破ル、其中ノ子紅ニシテ甘シ、小兒好シ、食フ、本草ニ大如鶏卵ト云、今又一種長八九寸アルモノアリ、

〔和漢三才圖會百蟲菜〕苦瓜 錦荔枝 癩葡萄 爾加古宇里、一云蔓荔枝、

本綱、苦瓜原出南番、今閩廣皆有之、五月下子、生苗引蔓、莖葉卷鬚並如葡萄而小、七八月開小黃花、五瓣如椀形、結瓜長者四五寸、短者二三寸、青色皮上瘠癩如癩、及荔枝殼狀、熟則黃色自裂、內有紅瓢裹